

令和6年度 アオコ情報（新川5）

9月5日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度^{※1}は、神天橋でアオコレベル2相当、新港橋でアオコレベル1相当^{※2}でした。
- アオコが発生している地点では、植物プランクトンであるミクロキスティスが見られました。

1 新川のアオコレベル

- 真鍋橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）
- 城北橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）
- 神天橋でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度： $225 \mu\text{g/L}$ ）
- 新港橋でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度： $54 \mu\text{g/L}$ ）

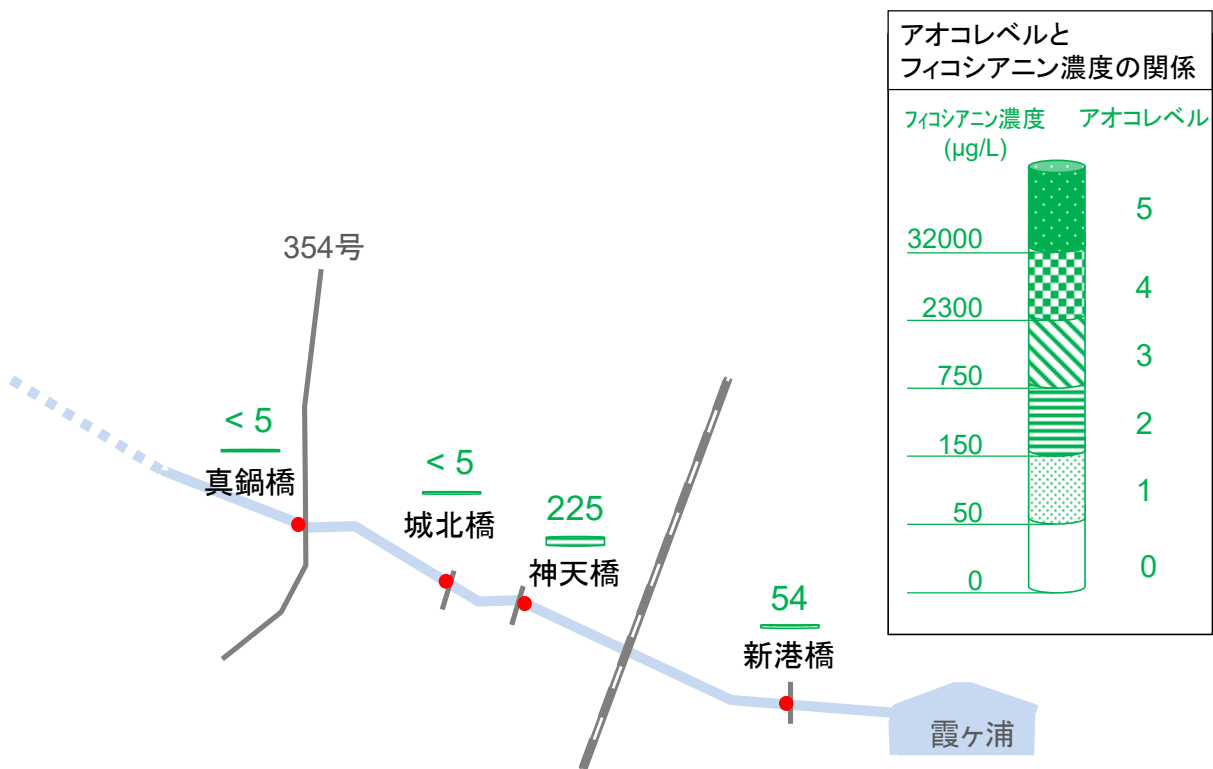


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

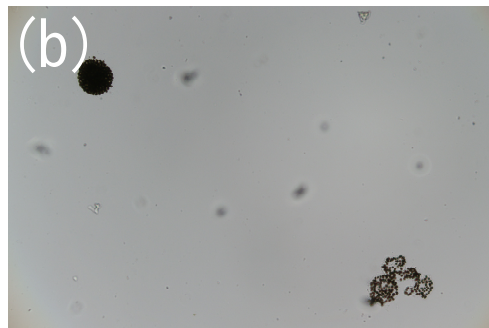
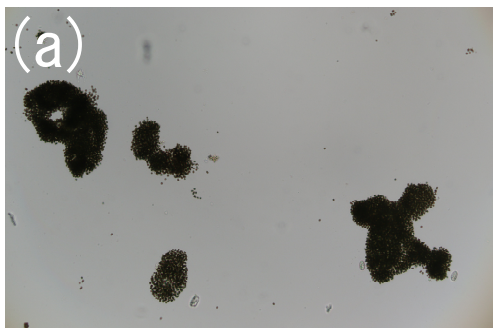
アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP：<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で $50 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル2で $150 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル3で $750 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル4で $2300 \mu\text{g/L}$ 程度、アオコレベル5で $32000 \mu\text{g/L}$ 程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

2 アオコを形成している植物プランクトン

- 神天橋 (アオコあり) : ミクロキスティスが見られ(a)、群体を形成していた。
- 新港橋 (アオコあり) : ミクロキスティスが見られ(b)、群体を形成していた。



※(a) 及び (b) とともに、点のように見える一粒一粒がミクロキスティスの細胞

● 調査結果の詳細

表 調査結果

	新 川			
	真鍋橋	城北橋	神天橋	新港橋
採水時刻	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日
	9:35	9:50	10:00	10:15
水温(°C)	26.2	26.4	26.9	28.4
pH	7.4	7.6	7.7	7.7
EC	26	25	24	44
透視度 (cm)	> 50	> 50	34	> 50
フィコシアニン (µg/L)	< 5	< 5	225	54
クロロフィルa (µg/L)	2	2	81	25
TN (mg/L)	2.1	2.0	2.4	4.5
TP (mg/L)	0.10	0.10	0.15	0.10

【アオコレベル】

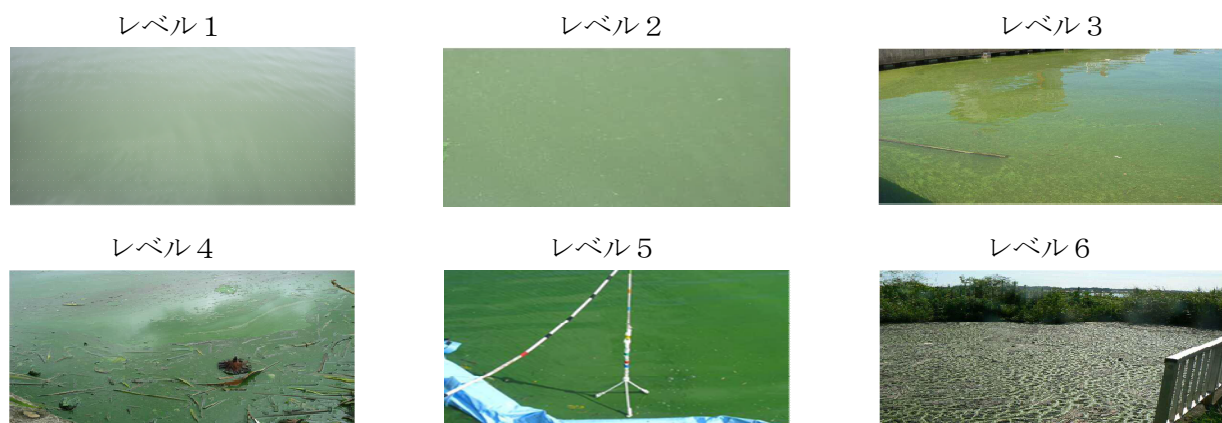


図2 アオコレベル